

しってる!?

インフルエンザと

ワクチン

● 監修

武内 可尚 先生

川崎市立川崎病院 名誉院長



インフルエンザってどんな病気?

冬になると流行するインフルエンザ。その原因は、通常、A型もしくはB型のインフルエンザウイルス感染によるものです。

ウイルスの感染は、かかっている方のせきやくしゃみでまわりの方にひろがったり(飛沫感染)、ウイルスが付いた手や指を通じて感染したりします(接触感染)。インフルエンザの流行時期(例年12~3月)の人混みは、たくさんのウイルスが空気中をただよっているの、感染リスクが高くなります。

ウイルスに感染してから1~3日(平均2日)後*に、さまざまな症状が現れます。また、症状が現れる24時間前~熱が下がった数日後まで、まわりの方に感染させる可能性があります。

インフルエンザは人から人に感染する力が強く、毎年国民の5~15%の人々がかかっています。また、重症化すると亡くなってしまう場合もあります。

*:潜伏期間

インフルエンザにかかるとを防ごう! 6つのポイント

- 1 流行前のインフルエンザワクチンの接種
- 2 外出後の手洗い等
- 3 適度な湿度の保持
- 4 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- 5 人混みや繁華街への外出を控える
- 6 室内ではこまめに換気をする

厚生労働省、インフルエンザQ&Aより

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infulenza/QA2023.html

多くの人が集まっている場所では
マスクの着用が感染予防に効果的です



武田薬品工業株式会社

インフルエンザの症状は？

のどの痛み、鼻水、から咳、頭痛、倦怠感、ゾクゾクする寒気などの全身症状を伴って、急に高熱(38~39℃以上)を発します。

関節痛や筋肉痛も伴い、無気力になります。下痢を起こすこともあります。

高熱は2~5日続き、熱が下がっても、体力・気力が回復するには、多くの場合、さらに1週間ほどかかります。

ご高齢の方や体が弱っている方、慢性の病気がある方などでは、重症化しやすく、肺炎を併発することがあります。

また、こどもでは、けいれんや中耳炎などの合併症を起こしたり、さらには、脳炎や脳症といった重い病気に進んでしまうこともあります。



インフルエンザワクチンは、なぜ毎年接種する必要があるの？

その理由の一つは、インフルエンザウイルスが、毎年少しずつ性質を変えているからです。そのため、世界中の専門家が次のシーズンに流行するであろうウイルスのタイプを予測し、その予測に基づきWHOがワクチンの候補となる推奨株を発表します。この発表をふまえて、毎年、それぞれの国で、その年にあったワクチンが検討され、作られます。

※今シーズンのインフルエンザワクチンに含まれる4種類のワクチン株(A型・B型各2種類)については、武田薬品のホームページ「みんなのワクチンナビ」をご覧ください(裏表紙参照)

もう一つの理由は、ワクチンが十分な効果を維持できるのは、接種後約5ヵ月までだからです。

ワクチンを接種していても、インフルエンザにかかってしまうことがあります。受けなかった場合に比べて症状が軽くすむことが多いと言われています。

特に重症化しやすい高齢の方や体が弱っている方、慢性の病気を持っている方、小児、妊婦の方には、ワクチンの接種をおすすめします。また、このような方々と一緒に住んでいる方や接する機会が多い方も「インフルエンザをうつさず、守る」という観点から、ワクチン接種が重要です。



インフルエンザワクチンは、いつ接種すれば良いの？

□ ワクチンが十分な効果を発揮し、維持できる期間は、接種後約2週間～5ヵ月とされています。

一方、インフルエンザの流行は、例年12月頃から始まり、そのピークは1月末～3月上旬に迎えます。これらのことから、

10月～12月中旬までに接種を済ませておくのが理想的です

□ 2回接種される方は、2回目の接種が1回目の接種を終えてから4週間おくのが望ましいとされているので、1回目の接種をなるべく早く早く終えておきましょう。

図 年齢とワクチンの接種量

	生後 6ヵ月	3歳	年齢 13歳	60歳	65歳
接種量・回数	0.25mL ×2回	0.5mL ×2回	0.5mL	0.5mL	0.5mL
	2～4週間の間隔※1で 2回皮下接種		1回または2回(1～4週間間隔※1)を 皮下接種		
					定期接種※2

※1 免疫効果を考慮すると接種間隔は4週間が望まれます。

※2 以下の方は、接種による重症化の予防効果による便益が大きいと考えられていることから、定期接種の対象者とされています

- 65歳以上の方
 - 60～64歳で、心臓、じん臓もしくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方。
 - 60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方。
- 接種費用は、自治体(市区町村)によって異なります。詳しくは住民票のある自治体にお問い合わせください。

インフルエンザワクチンを接種する前に特に注意することは？

- ▶ 原則、体調が良い時にワクチン接種を受けましょう。
いつもと体調が違う、なんとなく調子が悪い方は、必ず、接種前に医師に申し出てください。
- ▶ 事前に予診票をよく読んでからワクチンの接種を受けましょう。



- ▶ インフルエンザワクチンはふ化鶏卵でつくられていますので、生卵を食べるとじんましんが出たり、あるいは特定の薬でアレルギー反応を起こしたことがある場合は、ワクチンを接種する前に医師に相談してください。
- ▶ インフルエンザワクチンと他のワクチンとを同時に接種する予定がある場合や、少し経ってから接種する予定がある場合は、ワクチンを接種する前に医師に相談してください。

インフルエンザとインフルエンザワクチンについて
武田薬品のワクチン関連情報ポータルサイトでご確認ください

みんなの **ワクチンナビ**

インフルエンザワクチン について
知っておいていただきたいこと

こちらから
アクセス！



https://www.takeda.co.jp/patients/vaccine_portal/influenza/

当院でインフルエンザワクチンを接種できます
接種を希望される方は、当院の医療スタッフにご相談ください

医療機関名

予約日

1回目 月 日 () 何時でも
 2回目 時 分

接種したワクチン 0.5mL Lot No.シール
 0.25mL